

境さかひに大豆まめ・小豆あづきなど植うゑ、少々せうせうたりにも仕へき事

一朝あさおき起をいたし朝草あさくさを刈かり、昼ひるハ田畑かうさく耕作かうさくに

かゝり、晩ばんにハ繩なはをなひ、俵たわらをあみ、何なににても

ときときの仕し事こと、油断ゆだんなく仕るべき事

一酒茶さけちやを買かひのミ申間まじく敷候、妻子さいしどうぜん同然どうぜんの事

一里方さとかたは屋敷やしきの廻まりに竹木ちくぼくを植うゑ、下葉したはなりとも

取り、薪たきぎを買候ハぬやうに仕るへき事

一萬種物よろづたねもの、秋初あきはじめに念いれえりを入扱候て、能種よきを置申おき

へく候、あしき種を蒔候まきへハ作毛さくまあしく候事

一正月しやうぐわつじふいちにち前まえに毎年まいねん鋤くのさきをかけ、鎌かまをも

打うなほし、能よくきれ候やうに仕るべし、悪あしき鋤

にてハ田畑たはたおこし候に果敢はかゆき候ハず、

かまもきれかね候へハ、同然どうぜんの事

一百姓ひやくしやうハ肥灰こゑはひ調置候義、専一せんいちに候間、雪隠せついん広ひろく